試験研究（事前）評価整理表

試験研究機関名　衛生研究所
所管課　薬務課

No.	施策目標等		試験・研究課題名	試験研究始期・終期		当初全体予算額（千円）	具体的評価項目				総合評定		部局コメント	外部アドバイザーコメント
	施策目標	研究課題分類		始期	終期		研究ニーズ把握手法	研究計画の妥当性	研究目的の妥当性	施策目標との関連性	1次評価	2次評価		
1	3－Ⅱ－(4)日常生活の安全と安心	生活衛生水準の維持向上	レジオネラ属菌の迅速検査法の検討	R3	R4	203	A	B	B	A	A	A	健康危機発生時において迅速に検査結果を得ることは、早期の原因究明や感染拡大防止の観点から非常に重要である。 また、遺伝子検査による検査結果を施設への指導に活用することで、生活衛生行政にも寄与できる。	レジオネラ症は、高齢者等では劇症型肺炎を起こすことが知られており、エアロゾルを発生させる人口環境の増加もあり、発生が知られているにも関わらず患者が増加している。一方で発生源の判明しない散発事例が多く、迅速な検査とそれに伴う発生源対策が重要と考えられる。LC EMA-qPCR法は平板培養法と高い相関関係あると報告されており、実際に利用可能であれば、迅速に生菌を検出でき実地の応用が期待される。これらの活用により事故時の迅速な調査や日常的にレジオネラ菌の生息状況が確認できるため、適格な対策に繋がることが期待される。

試験研究（事前）評価整理表

試験研究機関名 ハイテクプラザ
所　　管　　課 産業創出課

No.	施策目標等		試験・研究課題名	試験研究始期・終期		予算額	具体的評価項目				総合評定		部局コメント	外部アドバイザーコメント
	施策目標	研究課題分類		始期	終期	当初全体予算額（千円）	研究ニーズ把握手法	研究計画の妥当性	研究目的の妥当性	施策目標との関連性	1次評価	2次評価		
1	県内企業の経営基盤、競争力・収益力の強化	基盤技術開発支援事業	輸入大豆の特性と味噌への加工適性評価	3	4	1,020	A	A	A	A	A	A	「醸造王国ふくしま」として、清酒のみならず、広く県産醸造製品のブランド化を図る上で有効である。	食料自給率の低い日本において、大豆の輸入量も多い、とくに加工用の輸入大豆量は多い。本研究の目的である輸入大豆の加工特性評価は、味噌加工業者にとっても関心が高い。この評価を行うことによって、福島県内の味噌のブランド力の強化につながることが考えられ、意義深い。地域の企業とも連携し研究の成果が出ることを期待する。
2	再生可能エネルギーの研究拠点・関連産業の集積・育成	福島新エネ社会構想等推進技術開発事業	高圧水素タンクの充填時検査技術の開発	3	5	60,000	A	A	A	A	A	A	水素社会を実現するためには、安全性の担保と水素コストの低減のための本研究が必要である。この様なニーズがあることから積極的に実施すべきである。	水素社会実現に向け、必要性が高いテーマであり、積極的に実施すべきである。水素は産業用ガスとして大量に用いられ、かつては水性ガス（石炭などを原料にした、水素と一酸化炭素の混合ガス）が家庭にまで供給されていた。水素エネルギー以外の分野での実績や知見を踏まえ、効率的に技術開発を行ってほしい。
3	医療関連産業など、本県の再生の推進力となる産業の集積	チャレンジふくしま「ロボット産業革命の地」創出事業	超小型自律走行外観検査ロボットの研究開発	3	5	29,761	A	A	A	A	A	A	開発するロボットは現代社会に求められ、研究する各要素技術は近い未来、企業に求められるハイリスク技術である。ふくしまブランドのロボット産業を勃興していける。	高いニーズに応える開発テーマであり、積極的に実施すべきである。ロボット開発に必要となる技術要素を全て自前で揃える必要はなく、外部のリソースも活用して効率的に開発を実施することが望まれる。自主技術である「ミリ波レーダとカメラセンサ」の性能を活かしたロボットが早期に実現することを期待する。
4	県内企業の経営基盤、競争力・収益力の強化	ものづくり企業のAI・IoT活用促進事業	AIを活用したロボットと人の協働によるバリ取り作業省力化の研究	3	4	12,441	A	A	A	A	A	A	複数の技術相談に基づく案件で、企業ニーズと政策的ニーズが合致しており実施すべきである。	本件の産業界のニーズにマッチした、ターゲットが明確なテーマであり、積極的に実施すべきである。現場の具体的なニーズを把握と、開発成果の円滑な移転のため、企業との連携を密にして取り組んで欲しい。
5	県内企業の経営基盤、競争力・収益力の強化	基盤技術開発支援事業	果樹剪定枝を原料とした染色における品質安定化の研究	3	4	550	A	A	A	A	A	A	研究成果は、繊維製品の他、紙や皮革など様々な地場産品の振興に大きく貢献できる。	果物生産も多い県として、話題性にも優れたテーマであり、積極的に実施すべきである。色素についての化学的なアプローチが中心であるが、地場産品の振興にはコンセプトを確立し、商品としての付加価値を高めることも必要である。デザイナー等とも早期に交流し、フルーツ王国ならではの色合いとデザインを世に出して欲しい。そのための活動経費まで考えると、計画書の予算では不足と思う。